

北欧スウェーデンとの産業交流 ～伝統的織物をテーマとした交流展覧会を開催

埼玉県秩父市産業観光部企業支援センター主幹 金田 幸宏

産業交流のはじまり

埼玉県秩父市とスウェーデン北部にあるシェレフトオ市とは、2007年3月に産業連携交流協定を締結し、産業分野を中心とした交流を行っています。この交流は、秩父市が取り組む木質バイオマス発電事業の視察のため、スウェーデンからの訪問団が訪れたことから始まりました。両市ともに森林資源に恵まれた環境を活かして、産業面や環境面において持続可能な自治体を目指すという共通目標を掲げていることから、スウェーデン大使館の仲介により協議を重ね、同協定の締結に至りました。

これまでには、首長、議長をはじめとする行政関係者や民間企業人の相互訪問、秩父市職員 of シェレフトオ市役所への1年間の研修派遣、日常生活をテーマにした写真展の相互開催など、産業交流を推進する基礎となる事業を実施してきました。この協定の中心的な分野は、林業などの森林分野、バイオマス技術などの環境分野などであることから、相互訪問の際には企業や研究機関等の特徴的な場所を視察し、お互いの経験や知識を交換してきました。その中で、2008年にシェレフトオ市からの訪問団が秩父市を訪れた際、両市に「織物」の文化が共通することを知り、織物をテーマとした展覧会の開催を提案されました。

「秩父銘仙」と「ヴァドマル」

秩父地域では、その風土を活かした産業として、江戸時代から養蚕・絹織物業が発達してきました。特に、大正から昭和初期にかけては、「秩父銘仙」と呼ばれる絹織物が大流行し、基幹産業として秩

父地域の発展に寄与してきました。現在でも、規模は小さいながらも織物業を営む企業があります。また、全国的に有名な「秩父夜祭」は、絹市の開催とともに発展した歴史があり、絹織物と地域文化は密接に関連しています。

これに対しスウェーデンでは、古くから農家の家畜として羊が貴重な存在でした。ミルクや食肉としても貴重でしたが、北欧の寒冷な気候を生きるためには、羊毛を使った暖かい衣服を作ることが重要でした。北欧で伝統的に作られている毛織物「ヴァドマル」とは、羊毛を毛糸に紡いだ後に織機で織物にし、さらにお湯の中で圧力をかけて収縮させることで、防寒性や耐水性を持たせた機能的な織物です。その特長から、作業服や猟師の防寒服、軍服としても用いられました。

このように、絹と羊毛という素材の違いはありますが、風土に根ざして発展してきた織物の文化は、両市において共通するものでした。

2年以上に及んだ準備期間

シェレフトオ市から提案のあった交流事業について、その実現の可能性や準備時期などの検討を重ねた結果、秩父市とシェレフトオ市の2か所において、2年後に当たる2012年に開催することに合意しました。コンセプトとしては、両市の伝統的織物を同時に展示し、歴史的・文化的な背景を対比することで、相互理解を深められるよう企画しました。また、当市にとっては、秩父銘仙を海外に紹介し、海外への販路拡大を図る第一歩としたいという産業面での目的もありました。

その後、展覧会のタイトル、開催日程、展示品の選定、説明資料の作成、展示品の輸送、訪問団

の派遣などの準備には何百通ものEメールをやりとりしながら、詳細を決めていきました。海外での展覧会開催は両市にとって初めての試みであり、製品販売も行ったことから、輸出品の関税の取扱い、通関書類の準備には苦労しました。

展覧会のタイトルは、その対比をシンプルに表現した「シルク&ウール」展とし、展示品の説明やパンフレットに使用する言語は、両市民が理解しやすいように日本語とスウェーデン語の2か国語で表記することとし、翻訳作業にも時間をかけました。



日本語とスウェーデン語の2か国語版のパンフレット

また、今回の事業には経費がかかることから、クレアの「地域国際化施策支援特別対策事業」の申請をし、採択を受けることができました。

「シルク&ウール～布の文化」展の開催

2年以上の準備期間を経て実現した交流展覧会は、2012年8月19日にシェレフテオ博物館で開催しました。秩父市からは、市長と市職員、織物技術者の5人の訪問団が開会式典に参加しました。90㎡の展示室には、大正～昭和時代の着物、デザイン原画、型紙、秩父銘仙についての説明パネルなどを展示したほか、伝統的な織機による手織り実演、繭から糸を紡ぐ実演を行いました。多くの



シェレフテオ博物館での実演の様子

シェレフテオ市民が会場を訪れて、繭から引き出される繊細な糸が織物になる工程に興味深く見学していました。隣接する展示室では、ヴァドマールに関する品物を展示し、2つの伝統織物の類似点と相違点がわかるように工夫しました。

そして、スウェーデンでの展覧会の閉幕後、直ちに展示品を日本に輸送し、「ちちぶ銘仙館」での展覧会を2012年11月2日から12月4日まで開催しました。シェレフテオ市からは市長、博物館職員、織物技術者が来日し、開会日には羊毛から毛糸を紡ぐ工程の実演を披露



ちちぶ銘仙館での毛糸紡ぎの実演

して来場者を楽しませました。また、訪問団と来場者をおもてなしするため、市民グループによるお茶会、三味線の演奏を披露して、日本文化の紹介を行いました。

成果と今後の展望

今回の事業では、2か所での開催に3千人近い来場者があり、相互の理解促進と秩父銘仙を海外に紹介するという初期の目的は達成できました。また、伝統技術を継承する技術者間の交流が生まれ、コラボレーション作品を制作することができ、今後の伝統産業の分野での交流のきっかけになりました。

今後の展開については、EUの選定する2014年の「欧州文化首都」にシェレフテオ市近郊のウメオ市が選ばれており、その関連イベントへの秩父市の出展の打診があることから、次のステップとしての事業展開を検討しています。

また、今回の伝統産業の分野から他の産業分野へ交流を拡大するため、現在、木材活用の分野での技術交流の準備を進めており、近い将来に実現できることを期待しています。

【参考】

スウェーデンでの展覧会の様子が動画でご覧いただけます。
<http://youtu.be/UvlfBaDQw0>